

シェイプ・アーツ トレーニングワークショップ

障害の社会モデルと文化芸術機関のアクセシビリティ



2012年のロンドン五輪を契機に、イギリスでは様々な取り組みが進み、街のバリアフリー化、障害のあるアーティストの育成や環境整備が大きく前進しました。

この動きを牽引した芸術団体の一つである「シェイプ・アーツ」から講師を迎え、障害を捉える上で重要な考え方である「ソーシャル・モデル」の考え方や、あらゆる人が参加可能な事業の企画・運営の方法などについて、一日完結型のワークショップ形式で学びます。

日時 2018年6月16日(土) 11:00~17:00
2018年6月17日(日) 10:00~16:00

※受付は開始時間の30分前より
※両日ともに同じ内容、一日完結型のワークショップです
※日本語通訳あり

講師



バーバラ・リシキ (シェイプ・アーツトレーナー)

トレーナー、コンサルタント。とくに美術や舞台芸術の分野を専門とする。2012年ロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会のセレモニーにおいてアクセス・マネジャーを務め、大会運営のアクセシビリティ向上に貢献。現在は自身の会社 Entertrainers LTD と、ディレクターを務める Equals Training で幅広いトレーニングの提供やプロジェクトの運営に携わっている。スタンドアップ・コメディアンとしても活躍し、障害のある詩人、ダンサー、ミュージシャン、コメディアンらが構成するツーリング・カンパニー、The Tragic but Brave Show の創設者のひとりでもある。



サリー・ブース (シェイプ・アーツトレーナー)

ウィンブルドン・カレッジ・オブ・アートでファインアートの修士号を取得後、ロンドンを拠点に美術家として活動している。英国内外で展覧会に出展するほか、テートビクトリア&アルバート美術館といった主要な美術館において参加型のアートワークショップや視覚障害者を対象にしたプロジェクトを実施。2005年には、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート主催の展覧会に出展するため日本に3週間滞在、奈良や福岡でワークショップなどを行った。2010年にはグレイアイ・シアター・カンパニーでアーティスト・レジデンシーを実施するなど劇場との関わりも多い。アーティストとしての活動の傍ら、2002年から2007年までシェイプ・アートでアート・デベロップメント・マネジャーとして、障害のあるアーティストや観衆のためのアクセシブルなアートプロジェクトの企画運営に従事したほか、近年は視覚障害者の文化へのアクセスを向上させるためトレーナーやコンサルタントとしても活躍している。

対象 文化や社会福祉の事業に携わっている方
公共ホールや民間ホールなど文化施設で働いている方
企業、NPO 法人などで文化事業に携わっている方

会場 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 創造活動室 A

